

## 論文審査の結果の要旨

氏名：日 暮 亮 太

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：非小細胞性肺癌における endocan の有用性について

審査委員：（主 査） 教授 杉 谷 雅 彦

（副 査） 教授 増 田 しのぶ 教授 吉 野 篤 緒

教授 高 山 忠 利

近年、肺癌細胞の増殖や転移の機序について、血管新生が重要な役割を担っていることが報告されている。血管新生を評価するマーカーとして、特に、Endothelial cell-specific molecule 1 (endocan)という物質が注目されている。その観点より、本論文は肺癌患者における endocan の有用性について成された研究報告である。

2014年4月から2015年9月までに日大板橋病院で肺癌に対して治療を行った患者のうち、本研究に同意を得られた非小細胞性肺癌23症例を対象としている。年齢は57～84歳（平均70.3歳）、男性17例、女性6例、組織型は腺癌16例、扁平上皮癌7例であった。血液検体より血中 endocan 濃度を測定し、TNM分類との関連性、無増悪生存期間および治療後の推移を検討している。また、血中 VEGF 濃度を同様に測定し、血中 endocan 濃度との関連性を検討している。さらに腫瘍組織を抗 endocan 抗体、抗 VEGF 抗体で免疫染色し、発現の局在性を評価し、発現率と病理所見、術後再発との関連を検討している。統計学的検討は危険率5%で両側検定としている。

その結果、血中 endocan 濃度は手術例において、胸膜浸潤の無い条件下で腫瘍径と相関関係があり、cut off 値 2.5 ng/ml で無増悪生存を反映していた。また、免疫染色では、endocan は腫瘍内の血管内皮細胞に発現していて、正常組織内の血管内皮細胞には発現していなかった。一方で VEGF の免疫染色では腫瘍部と正常部の両方に発現を認めたことから、endocan は VEGF より腫瘍に特徴的な働きを反映している可能性が考えられた。これらより手術前の血中 endocan 濃度は、術後再発を予測するマーカーとしての有用性が示唆された。

以上、本研究は最新の優れた研究と考えられる。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認める。

以 上

平成28年2月17日